



平成二十七年
度
学校マナー
ジメント
フォーラム

深谷市教育委員会



教職員、専門人材等 チームとしての体制の総合的な整備





夢を育む深谷の教育

深谷市教育委員会

人は誰もが「夢」を抱き、これを「こころざし」として掲げ、自らの人生を歩んでいきます。その道のりは、決して平坦ではありませんが、自らを叱咤し、友を思いやり、社会の中で助け合い、「夢」の実現に一步一步近づいていくのです。

深谷市は、このような子供たちの自立と成長を手助けしていきます。

教育の目的

- 人格の完成
- 国家・社会の形成者として必要な資質を育成



深谷の教育資源に立脚して



渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進



渋沢 栄一翁の事績

深谷市のコンセプト

○実業経済をはじめとする近代日本の創造

➡ 立志

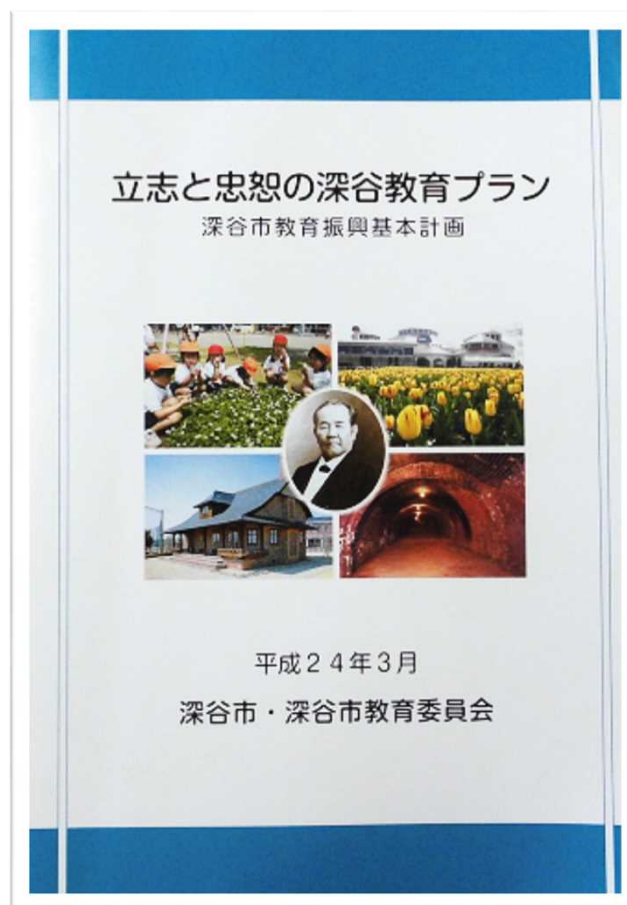
○精神的基盤として「論語」を尊重

➡ 忠恕

○株式制度・社会福祉・国際親善等の奉仕の精神

➡ 支え合い

深谷市教育振興基本計画 立志と忠恕の深谷教育プラン



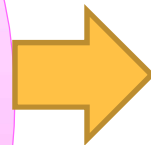
夢とこころざしをもち、
まごころと思いやりのある深谷の子の育成

夢とこころざしをもち、
まごころと思いやりのある深谷の子の育成

青淵学びの郷づくり



■ 子供たちの夢を
育むための**学び**を支援



- **立志の精神**
- **忠恕の心**
- **支え合う心**



■ 子供たちの夢を支える
教師の意欲を支援



- **人的環境**の整備
- **物的環境**の整備

立志と忠恕の深谷教育
～ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる～

深谷市学校教育グランドデザイン

平成27年度 深谷市教育委員会

～深谷市は渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育に取り組みます～



深谷市のめざす子ども像
像に内かって「生きる力
(知恵・体・心)」を培
くおんだね。

渋沢栄一翁は、近代日本経済の礎を築いた紳士の偉人であり、教育や福祉、さらには、国際親善などでもたくさんの業績を残しました。これらの業績を成し得たのは、栄一翁が生誕を通じて、「立志の精神」と「忠恕の心」を大切にしていたからです。

昨年、世界文化遺産に登録された富岡製糸場は、日本の近代化の足がかりとなり、その後の日本の発展に大きな影響を及ぼしましたが、この製糸場設立には、栄一翁をはじめ、深谷出身の尾高傳忠翁、並坂直次郎氏が大いに貢献しました。

この深谷出身の3偉人の生き方から見てくるものは、明治のはじめ、何とか国を発展させ、人々の暮らしを豊かにしようとするところざす精神、そして、人と人とのつながりを大切にする思いやり心ではないでしょうか。

深谷市教育委員会では、栄一翁の精神を根底にすえ、「深谷市教育振興基本計画～立志と忠恕の深谷教育プラン」（平成24年度～29年度）に基づき、幼・保・小・中・高へと続く「タテの連携」、家庭・地域とのつながりを深める「ヨコの連携」を一層強め、「夢とところざしをもち、まごころと思いやり」のある深谷の子を育てます。

深谷市のめざす子ども像

夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子

深谷の子
「6つの誓い」

- 【立志の精神】 私は、**夢**に向かって努力します。 私は、**毎日勉強**します。 私は、たくさん挑戦し、**体験**します。
- 【忠恕の心】 私は、**すすんであいさつ**をします。 私は、**脱いだくつをそろえます**。 私は、**心のこもったことば**をつかいます。



知恵・体・心の
3つの礎で「夢」の扉
を開けるんだね。

教育内容（重点） 夢をはぐくむ

- 基礎・基本の定着、活用する力を身につけます
- 豊かな人間性を身につけます
- 心身の健康を保持し、体力を身につけます
- 個の違いを大切に、共に生きる姿勢を身につけます
- 情報活用能力・コミュニケーション能力・国際感覚を身につけます
- 社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を身につけます

◇青淵・学びの郷づくり

- ・小中一貫教育の推進
- ・ALT活用の早期英語教育
- ・深谷市チャレンジ
- ・中学生補習学習
- ・ところざし深谷（国際・科学）塾
- ・キャリア教育の充実
- ・総合的な学び、不登校対策
- ・ところざし読本・歳時記
- ・まごころ先生派遣
- ・まごころ訪問
- ・研修を楽しむ会
- ・食育推進と朝食欠食解消
- ・武道（柔道）指導の充実
- ・体力向上の取組の推進

子どもたちの夢を支え 子どもたちの夢をはぐくむ 園・学校・地域連携



教師の力量向上「熱い思い、指導力、人間力」

条件整備（重点） 夢を支える

- 0歳から15歳までの子どもを一貫して育てます
- ★タテの連携
 - ・幼・保・小・中・高のなめらかな接続
 - ・全中学校区で小中一貫教育の推進
- ★ヨコの連携
 - ・市民協働（学校の運営・学校運営協議会）
 - ・教育・福祉連携推進協議会の充実
- いじめ防止関連条例のもと、子どもの安心・安全を回ります
- 特別支援教育体制の整備・充実を回ります

◇青淵・学びの郷づくり

- ・学校組合支援員の配置
- ・アシスタントティーチャラーの配置
- ・スクールライフサポーターの配置
- ・図書館補助員の配置
- ・教科支援エキスパートの配置
- ・特別支援補助員の配置
- ・教育相談員の配置
- ・ICTの整備と活用
- ・給食場建設（自校給食）
- ・全教室・特別室エアコン稼働
- ・幼・保・小・中連絡協議会
- ・中・高連絡協議会
- ・学校応援団・学校運営協議会等

深谷市学校教育グランドデザイン



深谷市で学ぶ子どもたちを「教え、育てる」ために、深谷の教育をどのように進めていくか、学校教育振興懇談会やPTA代表等との協議を踏まえ、基本的な方針を示したものです。

Point1 教育の大きな役割

教育には、子どもたちに、変化の激しい社会をたくましく生き抜く力や社会を形成する主体者としての資質を育成することが求められています。将来の社会的自立に向けて、人との関わりや社会の中で、自らの夢を描き、実現できるよう、子どもたちを教え導いていきます。

Point2 深谷の教育資源に立脚して

深谷市には、渋沢栄一翁や生沢クノ女史など、多くの先人がいます。また、豊かな自然や世界をリードする産業が立地する環境にも恵まれています。義務教育段階での基礎・基本の徹底を踏まえつつ、ふるさと「深谷」のすばらしい資源を活用した教育を推進していきます。

Point3 深谷市の先人 ～ 渋沢栄一翁 ～



渋沢栄一の足跡から、今、求められる教育の姿にたどり着くことができます。

- I 近代日本の国づくりを推進した生涯～「立志の精神」
 - II 徳性を精神的基盤として、実業界にたずさわった姿～「忠恕の心」
 - III 人々をまとめ、会社をおこし、慈善活動・国際親善に取り組む姿～「支え合う心」
- 「深谷市は渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育に取り組みます」

Point4 深谷市の「めざす子ども像」

夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子

人は、「夢」をいだし、これを「ところざし」として掲げ、自分の人生を歩んでいきます。その道は、決して平坦ではありませんが、自らを叱咤し、友を思いやり、社会の中で助け合いながら、「夢」の実現に一步一步近づいていくのです。深谷市は、このような子どもたちの自立と成長を手助けしていきます。

深谷の子「8つの誓い」

深谷の子「8つの誓い」を推進する取組を通して、深谷市のめざす子ども像「夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」の育成に努めます。

Point5 夢を叶える3つの鍵



ところざしを立て、自らの「夢」を実現するためには、「知恵、心、体」の3つの鍵が必要です。子どもたちが、この3つの鍵を手に入れて、生きる力を身につけ、未来を切り拓いていけるよう、学校、家庭、地域が一体となって連携し、協働することが大切です。

Point6 深谷市独自の教育資源を生かした「学び」の充実

教育内容（重点） 夢をはぐくむ

小中一貫教育の推進
「つなぎ教材集」等を活用し、指導法の工夫・改善を図ります。



- 基礎・基本の定着、活用する力を身につけます
- 豊かな人間性を身につけます
- 心身の健康を保持し、体力を身につけます
- 個の違いを大切に、共に生きる姿勢を身につけます
- 情報活用能力・コミュニケーション能力・国際感覚を身につけます
- 社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を身につけます

ALT活用の早期英語教育
児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の素地・基礎を養い、国際性を育みます。



キャリア教育の充実
2分の1成人式や立派式等を通して、児童生徒の夢とところざしを育みます。



資源・学びの結びつき

- ◇小中一貫教育の推進
- ◇ALT活用の早期英語教育
- ◇深谷市チャレンジ
- ◇中学生補習学習
- ◇こころざし深谷（国際・科学）塾
- ◇キャリア教育の充実
- ◇総合的学び・不登校対策
- ◇こころざし読本・道徳朝
- ◇まごころ先生講座
- ◇まごころ塾型
- ◇子どもの環境を楽しく変え
- ◇教育現場と町民女性会連携
- ◇体力向上の取組の推進
- ◇武道（柔道）指導の充実

知恵

心

体

総合的学び・不登校対策
「安心ふっかネット」を活用し、ネット等によるいじめの未然防止に努めます。



Point7 新しい教育課程に対応した「教育環境」の充実

条件整備（重点） 夢を支える

幼・保・小・中連携協議会
幼稚園・保育園・小学校
中学校のなめらかな接続を図ります。



- 0歳から15歳までの子どもを一貫して育てます
- ☆夕方の連携・幼・保・小・中・高の
なめらかな接続
→全中学校区で小中一貫教育の推進
- ☆ヨコの連携・市民協働（学校応援団
学校運営協議会等）
→教育・福祉連携推進取組の充実
- いじめ防止関連条例のもと、子どもの安心・安全を図ります。
- 特別支援教育体制の整備・充実を図ります。

学校総合支援員配置
学校総合支援員を確保して、ステップアップレッスンを拡充し、生徒の基礎学力の定着を図ります。



学校応援団・学校運営協議会等
学校、家庭、地域が一体となった教育（市民と協働）を推進します。



資源・学びの結びつき

- ◇学校総合支援員の配置
- ◇教科支援エキスパートの配置
- ◇アシスタントティーチャーの配置
- ◇特別支援講師の配置
- ◇スクールカウンセラーの配置
- ◇教育相談員の配置
- ◇図書情報員の配置
- ◇ICTの活用
- ◇給食連携（自校給食）
- ◇全教室・特別室エアコン設置
- ◇幼・保・小・中連携協議会
- ◇中・高連携協議会
- ◇学校応援団・学校運営協議会等
- ◇こころざし深谷教員塾
- ◇学校総務サポートチーム

人

環境

連携

給食連携（自校給食）
地域の食料をできるだけ使用し、安心で安全な給食の提供を行います。





ふかや こ ちか 深谷の子「6つの誓い」

しづさわ えいいち おう こころ う つ ふかや きょういく
～渋沢栄一翁の心を受け継ぐ深谷教育

ゆめ おも ふかや こ
夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子



りっし せいしん ゆめ
立志の精神(夢とこころざし)



ちゅうじょ こころ おも
忠恕の心(まごころと思いやり)



わたし
私は、

ゆめ
夢

む どりよく
に向かって努力します。

夢は、人生を豊かに
します。
目標を立て、日々努
力し、「こころざし」
としてかかげていきま
しょう。

わたし
私は、

まいにち べんきょう
毎日勉強

します。

真剣に授業にのぞみ
学び合うなかで、学力
は定着します。
家庭でも計画を立て
て、毎日学習をしまし
ょう。

わたし ちょうせん
私は、たくさん挑戦、

たいけん
体験

します。

実際に身をもって学
ぶことで、新しい発見
ができます。
今までやっていなか
ったことにも挑戦し、
体験を広げていきまし
ょう。



わたし
私は、

**すすんで
あいさつ**

をします。

あいさつは、社会生
活の基本です。
「おはよう」「ってきます」
だれにでも、気持ち
をこめて、笑顔で元気
にあいさつをしましよ
う。

わたし ぬ
私は、脱いだ

**くつを
そろえ**

ます。

くつそろえは、気持
ちを整えることにな
ります。
いつでもどこでも、
自分のくつはもちろん
周りのくつも、そっと
そろえてみましょう。

わたし
私は、

こころ
**心のこもった
ことば**

をつかいます。

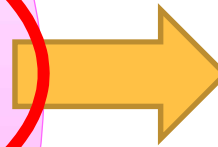
「ありがとう」「どういたしまして」
「ごめんなさい」「大丈夫です」
支え合い、助け合い、
人への思いやりは、温
かい言葉となって表れ
ます。ことばを大切に
しましょう。

夢とこころざしをもち、
まごころと思いやりのある深谷の子の育成

青淵学びの郷づくり



■ 子供たちの夢を
育むための**学び**を支援



- ・ 立志の精神
- ・ 忠恕の心
- ・ 支え合う心

■ 子供たちの夢を支える
教師の**意欲**を支援



- ・ 人的環境の整備
- ・ 物的環境の整備

「立志の精神」

子どもたちの夢を
育むための学びを支援

■ ステップアップレッスン



■ 深谷市チャレンジ



■ こころざし深谷科学塾



「立志の精神」

子どもたちの夢を
育むための学びを支援

■ こころざし深谷国際塾



■ 早期英語教育



■ 英語王国



「忠恕の心」「支え合う心」

■ 渋沢栄一 こころざし読本・歳時記



■ まごころ訪問



■ ありがとうの手紙



夢とところざしをもち、
まごころと思いやりのある深谷の子の育成

青淵学びの郷づくり



■ 子供たちの夢を
育むための**学び**を支援

- ・ 立志の精神
- ・ 忠恕の心・支え合う心



■ 子供たちの夢を支える
教師の**意欲**を支援

- ・ 人的環境の整備
- ・ 物的環境の整備

■ 具体的な取組例

I 人的環境

チーム学校

1 学校運営面から

- ・ 学校問題サポートチーム
- ・ 学校総合支援員

2 学習面から

- ・ 小学校教科支援エキスパート
- ・ 理科支援員
- ・ 学校アシスタントティーチャー 等

3 生徒指導面から

- ・ スクールライフサポーター
- ・ 学校福祉相談員 等

II 物的環境

- ・ 総合的校務支援システムの導入
- ・ ICT環境の整備



学校運営面から

- ・学校問題サポートチーム
- ・学校総合支援員

学習面から

- ・教科支援エキスパート
- ・アシスタントティーチャー等



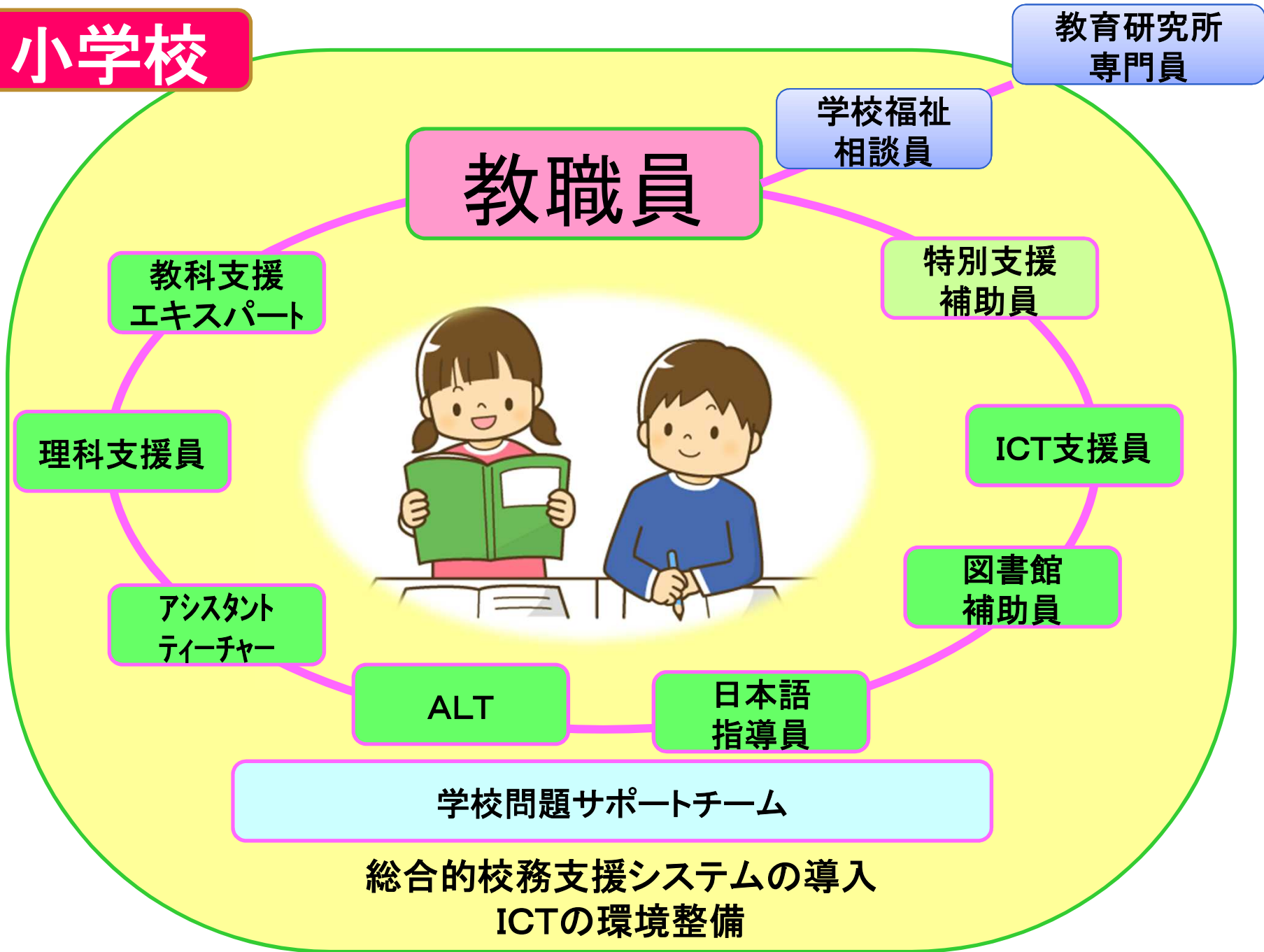
生徒指導面から

- ・学校福祉相談員
- ・スクールライフサポーター等

チームとしての体制整備

総合的校務支援システムの導入
ICTの環境整備

小学校



中学校

教育研究所
専門員

教職員

学校福祉
相談員

教育相談員

スクールライフ
サポーター

学校総合支援員
Aタイプ・Bタイプ

ICT支援員

図書館
補助員

日本語
指導員

ALT

特別支援
補助員



学校問題サポートチーム

総合的校務支援システムの導入
ICTの環境整備

主として学校運営面からの支援

人的環境

学校問題サポートチーム

学校総合支援員、学校福祉相談員、警察OB、
弁護士、教育研究所専門員、学校教育課担当等

学校

教育委員会

問題が発生

報告・連絡・相談

教職員による対応が
困難・重大なケース

- ・法的な判断が必要
- ・警察等との連携が必要
- ・臨床発達心理的な見地からの判断が必要
- ・その他、高度な判断が必要

会議
招集



早期解決・・・
安定した教育環境づくり

学校問題サポートチーム

専門的立場からの指導・助言・援助

主として学校運営面からの支援

人的環境

学校総合支援員

H23年度スタート

目的

- ・不登校やいじめ、安全対策など学校が抱える様々な問題への対応
- ・学習に不安を抱える生徒への補習学習などの対応

学校運営に係る
総合的な支援を図る

Aタイプ

【週4日】

各中学校に1名配置

- いじめ、不登校対応及びスクールガード
- 中学生補習学習の支援

成果

人数 深谷市不登校児童生徒数の推移



H27~

拡
充

生活困窮家庭の
生徒への学習
支援の充実



中学生補習学習

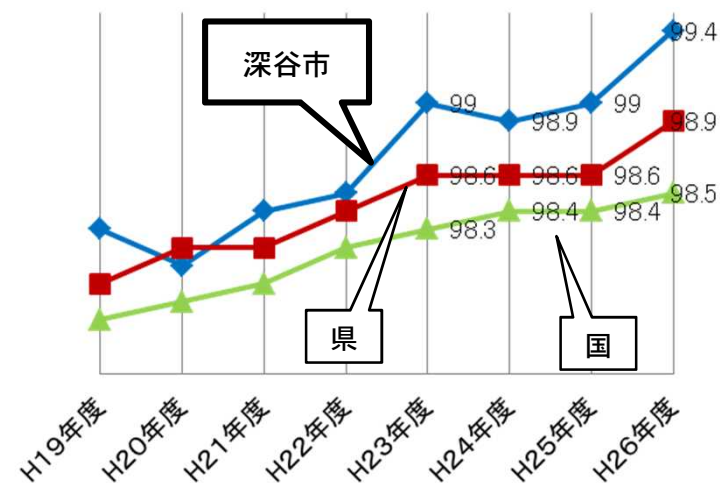
Bタイプ

【週2日】

さらに各中学校に1名配置

- 放課後補習学習の支援充実

高校進学率の推移(%)



主として学習面からの支援

人的環境

小学校教科支援エキスパート



不登校の未然防止

中1ギャップへの対応

教育指導の充実

目的

小学校高学年における授業の一部でエキスパートによる専科指導を実施することで小学校(学級担任制)から中学校(教科担任制)へのなめらかな接続を図る

配置

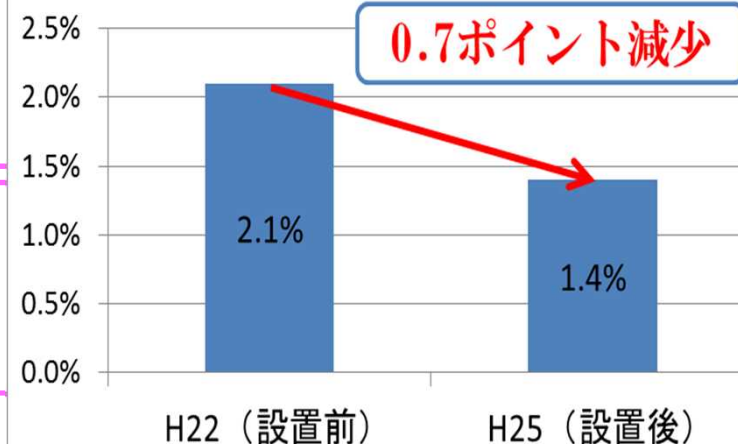
- ・全ての小学校に配置(15名)
(H27:音楽14校、家庭科5校、書写1校)
- ・1日4時間(週2日～週5日勤務)

成果

- ・教科担任制に慣れることができる
- ・教育相談やALT等との打合わせ時間を確保

成果

中学校1年生 不登校の割合



理科支援員

H19年度～

目的

- 有用な外部人材を小学校3～6学年の理科の授業に配置・活用
- ・理科の授業における**観察、実験活動の充実**
 - ・**教員の資質向上**を図る

内容

- ・観察、実験の準備及び片付け
- ・教材開発の支援 等

配置

- ・5名 全19小学校に週1日配置
- ・1時間目から4時間目まで

成果

- ・子供の理科への興味関心が高まる
6年生「理科の勉強が好き」87.6%（全国平均値よりも**+4.1ポイント**）
- ・理科授業の充実、きめ細かな安全面への配慮



主として学習面からの支援

人的環境

アシスタントティーチャー

低学年の担任を補助

TTによるきめ細やかな指導の実施

ALT

幼稚園や小1段階からの外国語指導

外国語活動の充実



日本語指導員

増加する外国籍の子供への対応

個に応じたきめ細やかな指導の充実



図書館補助員

学校図書館の整備・充実と学習の補助

読書活動の充実

■主として生徒指導面からの支援

スクールライフサポーター



人的環境

目的

- ・ 生徒指導上の課題など学校生活全般を支援

内容

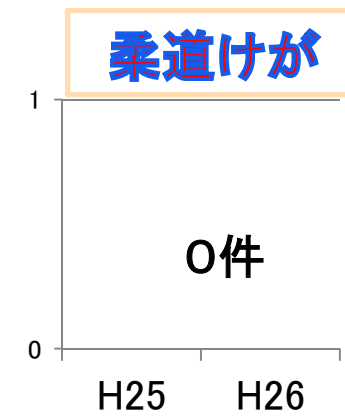
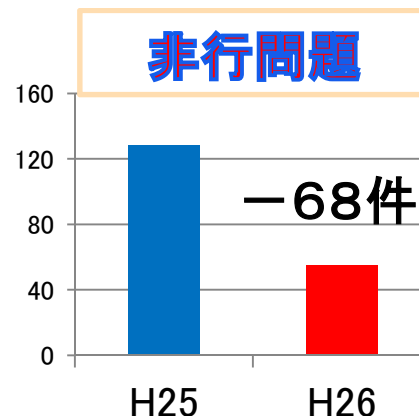
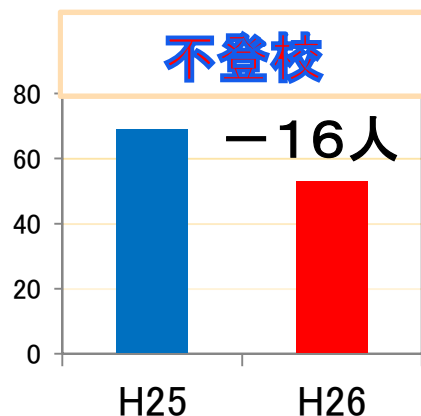
- ・ 不登校児童生徒への支援
- ・ 問題行動の早期発見及び教員との連携
- ・ 体育における柔道支援

配置

- ・ 中学校 8 校、小学校 2 校に一人ずつ配置（計 10 名）
- ・ 週 5 日 6 時間

成果

- ①不登校、非行・問題行動等に対する迅速な対応
- ②個に応じた指導支援による児童生徒の授業集中力アップ
- ③安全かつ充実した柔道授業の実施



■ 主として生徒指導面からの支援

人的環境

特別支援補助員

特別な教育的支援の必要な児童生徒への対応

(市内小中学校に在籍する割合:約6.5%)

市内小中学校に25名を配置

学校からの要請を受け配置



支援が必要な児童生徒への

自立支援・学習支援・介助

～担任と一体となり支援～

教育支援プランの作成

特別支援学級:100%

通常の学級:80%

(H26年度)

主として生徒指導面からの支援

人的環境

学校福祉相談員

(臨床心理士・臨床発達心理士を計3名)

教育研究所専門員(7名)



深谷市立教育研究所

関係各課・医療



連絡調整

情報交換

- SC
各中学校に
配置
- SSW
中学校区に
週2回配置

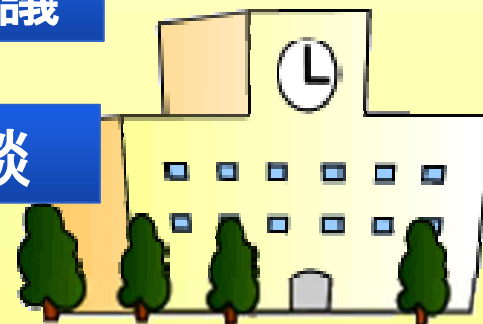
年49回開催(H26年度)

ケース会議

巡回相談

教育相談

小学校
中学校



のべ2238件の相談
(H26年度)

116日訪問
(H26年度)



総合的校務支援システムの導入

名簿・出欠席・成績等を一元化

名簿の管理

- ・各種名簿の作成
- ・緊急連絡メール

出欠席の管理

- ・出欠状況の把握
- ・統計資料の作成

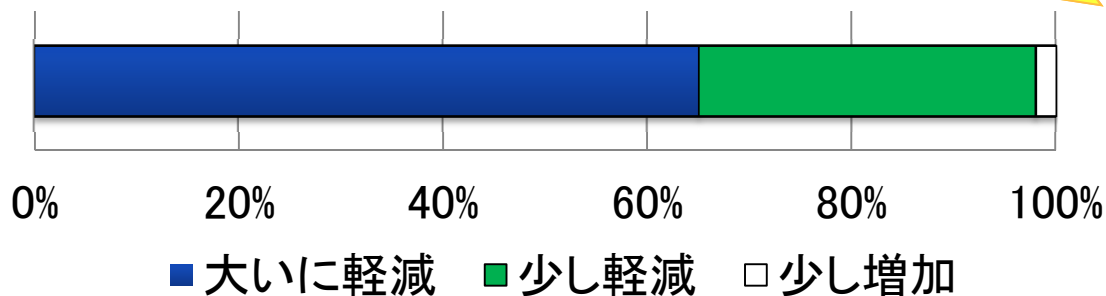
成績処理

- ・通知表の作成
- ・指導要録等の作成

情報セキュリティ対策

情報管理規定の設定・ウィルス対策

成績処理事務の負担感の変化



教員一人あたり

年間平均65.4時間を捻出

子供と向き合う時間の確保



授業でのICTの活用

○全教室に書画カメラ

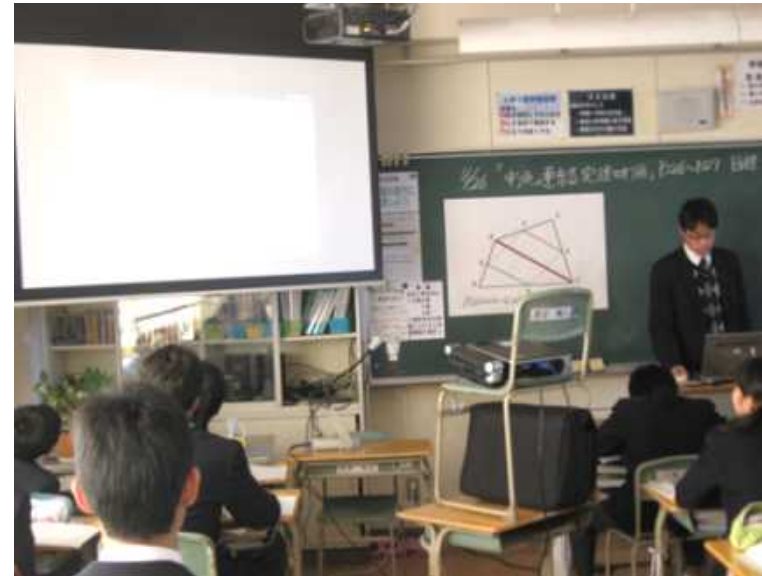


○モニターの整備

小学校：大型液晶テレビ

中学校：天吊液晶プロジェクター

○各クラス1台の指導用PC



○よりわかりやすい授業

○教材作成の時間短縮

○ICTを活用した

授業の割合

約2時間に1回

小学校47.8%・中学校52.4%

特別な教育的ニーズに対するICTの効果的活用

- 全ての通級指導教室・特別支援学級にiPadを整備
 - ・教育研究所と市内29校に合計**157台**を整備
(通級指導教室各3台、各クラス2台)
- ふっかちゃん子ども福祉基金を活用



- 障害や発達の段階に応じた学習指導
- 生活上の困難をサポート

成果

- ・自主的・意欲的に学習に取り組めた
- ・自分の口の動きを客観的に見て発音の仕方を学べた(きこえとことばの教室)

事務の共同実施による教員のサポート

事務の効率化

人材育成
(プロを育てる)

校務支援システム
との連携・活用

教員の事務処理時間の軽減
適正な事務の実施
共同実施による情報の共有化
校内運営(企画)委員会への参加



チーム学校の一員として教員を支援

成果

多様な人材配置による安定した学校運営の実現

○夢やこころざし、まごころと思いやりの育成

- ・「夢や目標をもっていますか」(肯定的回答の割合)
H20 72.4% → H26 79.5%(+7.1ポイント)
 - ・「人の気持ちができる人になりたいか」(肯定的回答の割合)
H20 92.5% → H26 97.8%(+5.3ポイント)
- 全国学力・学習状況調査質問紙調査(中3)より

自己実現を目指す
子供たちの
意欲的な姿勢

○学習意欲の向上

- ・全国学調(中3) 無解答率(4項目の平均)
H20 9.6% → H26 4.1%(−5.5ポイント)
- 全国学力・学習状況調査教科に関する調査(中3)より

教職員による
充実した
授業の実施

○生徒指導上の諸問題の減少

| | | | | | | |
|------|-----|------|---|-----|-----|--------|
| いじめ | H20 | 64件 | → | H26 | 16件 | (75%減) |
| 不登校 | H20 | 157人 | → | H26 | 53人 | (66%減) |
| 暴力行為 | H20 | 68件 | → | H26 | 8件 | (88%減) |

組織的取組による
積極的生徒指導の
推進

課題

○学校の組織力の向上

学校が、校長を中心とする組織体として十分に機能すること



- ・教職員や専門人材による目標共有、協働意欲、情報共有の徹底
- ・個々の力量発揮と、互いに補完し合うチーム意識の醸成

○学力の向上

多忙感を解消し、日々の授業を改善して学力向上に結びつけること



- ・チーム意識をもち、新しい教育課題への対応を図る研修の推進
- ・教員が子供と向き合う時間を確保するための教職員のチーム意識の醸成

○複雑化する生徒指導上の課題への対応

家庭環境の変化、特別な教育的支援を要する子供の増加への対応を図ること



- ・学校を福祉のプラットフォームとして機能させる取組の導入
- ・専門家の知見を活用し、チームとして臨機応変な対応

今後の方向性

児童生徒の減少(小・中学校の適正配置)

地域における学校の存在意義

家庭・地域の教育力の低下

地域の核となる学校づくり

チーム学校

専門人材の
活用

家庭・地域の
学校運営への参画



関係機関との連携強化

学校運営協議会
(深谷モデル)の構築

中学校区におけるSC・
SSWの常駐的配置

教職員の地域への
参画

元気な学校

元気な子供

元気な地域

地域総がかりで次代を担う子供たちを育成



ご清聴ありがとうございました

